

## 2022年上半期(1～6月期)の出版市場を発表

## 紙＋電子は3.5%減の8,334億円。紙が7.5%減、電子は8.5%増

出版業界の調査・研究機関である（公社）全国出版協会・出版科学研究所（所在地：東京都新宿区、理事長：浅野純次）は、2022年上半期（1～6月期累計）の出版市場規模を『出版月報』7月号（7月25日発売）で発表しました。

紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、前年同期比3.5%減の8,334億円。紙の市場は同7.5%減となり、これまで二桁成長が続いてきた電子出版は同8.5%増と伸びが落ち着き、全体ではマイナスとなりました。なかでも紙・電子ともにコミックの伸び率が鈍化したことが大きく影響しました。

## □ 紙市場は5,961億円、書籍・雑誌ともに苦戦

2022年上半期の紙の出版物（書籍・雑誌合計）の推定販売金額は、前年同期比7.5%減の5,961億円。内訳は、書籍が同4.3%減の3,526億円、雑誌が同11.8%減の2,434億円といずれも前年を下回りました。コロナ特需が終息し、さらに2月のロシアによるウクライナ侵攻を機に、資源価格が高騰。円安も重なってインフレが加速し、様々な商品が値上げするなか、出版物の販売も停滞する動きが出てきました。

書籍は、文芸、ビジネス、文庫本、新書、学参など主要ジャンルがいずれも前年割れに。これまで好調だった児童書も約3%減少しました。

雑誌も全体的に苦戦。内訳は月刊誌（コミックス、ムック含む）が同12.8%減の2,033億円、週刊誌は同6.3%減の401億円。月刊誌の内訳は定期誌が約5%減、ムックが約1%減、コミックスが約26%減。定期誌では、上半期は月刊誌の創刊がゼロでした。コミックスは、20年は『鬼滅の刃』（集英社）、21年は『呪術廻戦』（同）、『東京卍リベンジャーズ』（講談社）などこの2年間はメガヒットが相次いで登場し、前年対比では激減しました。それでも、19年比では約10%増となり、『SPY × FAMILY』（集英社）など新たなヒットも数多く生まれています。

## □ 電子出版市場は8.5%増の2,373億円、コミックは1割増、書籍は微減

2022年上半期の電子出版市場は、前年同期比8.5%増の2,373億円。内訳は電子コミックが同10.2%増の2,097億円、電子書籍が同0.4%減の230億円、電子雑誌が同13.2%減の46億円でした。

コロナ禍の巣ごもり需要で増加したユーザー数の伸びが落ち着き、市場は成熟期に入ったと見られます。コミックはメガヒット作品こそ少なかったですが、「ピッコマ」などマンガアプリの売れ行きが非常に好調。縦スクロールコミックの伸びも目立ちました。書籍は前年実施のストアのセールの影響で微減となりましたが、ライトノベル、写真集などは好調でした。雑誌は、サブスクリプションの会員減で、減少が続いています。

## ■ 2022年上半期 紙と電子の出版物推定販売金額

年		2021年1～6月期 (億円)	2022年1～6月期		占有率(%)
			(億円)	前年同期比(%)	
紙	書籍	3,686	3,526	95.7	42.3
	雑誌	2,759	2,434	88.2	29.2
	紙合計	6,445	5,961	92.5	71.5
電子	電子コミック	1,903	2,097	110.2	25.2
	電子書籍	231	230	99.6	2.8
	電子雑誌	53	46	86.8	0.6
	電子合計	2,187	2,373	108.5	28.5
紙+電子	紙+電子合計	8,632	8,334	96.5	100.0

※占有率の合計は四捨五入の関係で一致しない ※電子コミック誌は電子コミックに含む

<本件に関するお問い合わせ> ※本レポートの詳細は、『出版月報』2022年7月号（頒価2,200円）に掲載しています。

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所 担当：久保、水野

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 TEL 03-3269-1379 FAX 03-3266-1855 <https://shuppankagaku.com>